

令和元年度（2019年度）採択プログラム 中間評価調査書
 卓越大学院プログラム プログラムの基本情報 [公表。ただし、項目12、13については非公表]

機関名		千葉大学		整理番号	1902
1.	プログラム名称	アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文学教育プログラム			
	英語名称	Applied Humanities Program for Cultivating Global Leaders			
	ホームページ (URL)	https://jinbun-takuetsu.chiba-u.jp/top/index.html			
2.	全体責任者 (学長)	※ 共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学（連合大学院によるものは基幹大学）の学長名に下線を引いてください。 ふりがな (なかやま としのり) 氏名 (職名) 中山 俊憲 (千葉大学学長)			
3.	プログラム責任者	ふりがな (やまだ まさる) 氏名 (職名) 山田 賢 (千葉大学大学院人文科学研究院歴史学研究部門図像情報史学講座・教授、大学院人文公共学府長)			
4.	プログラムコーディネーター	ふりがな (よねむら ちよ) 氏名 (職名) 米村 千代 (千葉大学大学院人文科学研究院行動科学研究部門社会学講座・教授)			
5.	設定する領域	最も重視する領域【必須】	②社会において多様な価値・システムを創造するような、文理融合領域、学際領域、新領域		
		関連する領域(1)【任意】	④世界の学術の多様性を確保するという観点から我が国の貢献が期待される領域		
		関連する領域(2)【任意】			
		関連する領域(3)【任意】			
6.	主要区分	最も関連の深い区分(大区分)	A		
		最も関連の深い区分(中区分)	3	歴史学、考古学、博物館学およびその関連分野	
		最も関連の深い区分(小区分)	3030	アジア史およびアフリカ史関連	
		次に関連の深い区分(大区分)【任意】	J		
		次に関連の深い区分(中区分)【任意】			
		次に関連の深い区分(小区分)【任意】			
7.	授与する博士学位分野・名称	博士(文学)または博士(学術)または博士(公共学)			
8.	学生の所属する専攻等名 <small>(主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)</small>	千葉大学大学院人文公共学府人文科学専攻、千葉大学大学院人文公共学府公共社会科学専攻、千葉大学大学院人文公共学府人文公共学専攻、千葉大学大学院融合理工学府数学情報科学専攻、千葉大学大学院総合国際学位プログラム、岡山大学大学院社会文化科学研究科日本・アジア文化専攻、岡山大学大学院社会文化科学研究科人間社会文化専攻、岡山大学大学院社会文化科学研究科社会文化学専攻、長崎大学大学院多文化社会学研究科多文化社会学専攻、熊本大学大学院社会文化科学教育部現代社会人間学専攻、熊本大学大学院社会文化科学教育部文化学専攻、熊本大学大学院社会文化科学教育部人間・社会科学専攻、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻			
9.	連合大学院又は共同教育課程による実施の場合、その別 <small>※該当する場合には○を記入</small>	10. 本プログラムによる学位授与数(年度当たり)の目標 <small>※補助期間最終年度の数字を記入してください。</small>			
	連合大学院	共同教育課程	12		
11. 連携先機関名(他の大学、民間企業等と連携した取組の場合の機関名)					
岡山大学大学院社会文化科学研究科日本・アジア文化専攻、岡山大学大学院社会文化科学研究科人間社会文化専攻、岡山大学大学院社会文化科学研究科社会文化学専攻、長崎大学大学院多文化社会学研究科多文化社会学専攻、熊本大学大学院社会文化科学教育部現代社会人間学専攻、熊本大学大学院社会文化科学教育部文化学専攻、熊本大学大学院社会文化科学教育部人間・社会科学専攻、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻、国立歴史民俗博物館、浙江工商大学東方語言文化学院、ロシア人文大学東洋古典学研究所、イオン株式会社、公益財団法人イオン環境財団、株式会社JTB総合研究所、千葉銀行					

(【1902】機関名：千葉大学 プログラム名称：アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文学教育プログラム)

[公表]

14. プログラム担当者一覧								
※「年齢」は公表しません。								
番号	氏名	フリガナ	年齢	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	フォロ(割合)
1	(プログラム責任者) 山田 賢	ヤマダ マサル		千葉大学大学院人文科学研究院歴史学研究部門国像情報史学講座・教授、大学院人文公共学府長	博士 (文学)	中国史	全体統括	3
2	(プログラムコーディネーター) 米村 千代	ヨネムラ チヨ		千葉大学大学院人文科学研究院行動科学研究部門社会学講座・教授	博士 (社会学)	家族社会学 歴史社会学	各プログラムの取りまとめ、企画運営委員会委員長	3
3	酒井 啓子	カイ ケイコ		千葉大学大学院社会科学研究院政治学・政策学研究部門国際社会科学講座・教授、グローバル関係融合研究センター長	博士(地域研究)	国際関係論、中東・イラク政治	副プログラムコーディネーター、アジアユーラシアプログラム責任者、アジアユーラシアプログラム担当(中東地域 グローバル関係論)	1
4	小澤 弘明	オザワ ヒロアキ		千葉大学国際未来教育基幹・大学院国際学術研究院・教授、大学院国際学術研究院長・国際教養学部長・副学長	国際学修士	歴史学 国際関係論	副プログラムコーディネーター、Digital Humanities 2.0プログラム責任者	1
5	内山 直樹	ウチヤマ ナオキ		千葉大学大学院人文科学研究院行動科学研究部門哲学講座・教授	博士 (文学)	中国哲学	アジアユーラシアプログラム担当(中国)	1
6	栗田 禎子	クリタ ヨシコ		千葉大学大学院人文科学研究院歴史学研究部門国像情報史学講座・教授	博士 (学術)	現代史 中東地域史	アジアユーラシアプログラム担当(中東・イスラーム地域)	1
7	小谷 真吾	オガニ シンゴ		千葉大学大学院人文科学研究院行動科学研究部門文化人類学講座・教授	博士 (学術)	生体人類学	アジアユーラシアプログラム担当(東南アジア)	1
8	児玉 香菜子	コタマ カナコ		千葉大学大学院人文科学研究院日本・ユーラシア文化研究部門ユーラシア言語文化論講座・准教授	博士 (文学)	文化人類学 環境人類学	アジアユーラシアプログラム担当(モンゴル)	1
9	大森 雅子	オオモリ マサコ		千葉大学大学院人文科学研究院国際言語文化学研究部門比較文化論講座・准教授	Ph. D. 博士(学術)	ロシア文学	アジアユーラシアプログラム担当(ロシア)	1
10	大原 祐治	オハラ ユウジ		千葉大学大学院人文科学研究院日本・ユーラシア文化研究部門日本語文化論講座・教授	博士(日本語・日本文学)	日本近現代文学	アジアユーラシアプログラム担当(東アジア比較文化)	1
11	石戸 光	イシド ヒカリ		千葉大学大学院国際学術研究院・教授	Ph. D.	国際経済論	アジアユーラシアプログラム担当(東南アジア:千葉大学バンコク・キャンパス実践的フィールド教育)	1
12	倉阪 秀史	クラサカ ヒデアキ		千葉大学大学院社会科学研究院政治学・政策学研究部門公共政策学講座・教授	経済学学士	環境政策論 環境経済論	アジアユーラシアプログラム担当(広域比較)	1
13	高 民定	タカ ミンテイ		千葉大学大学院国際学術研究・准教授	博士 (学術)	社会言語学、日本語教育、韓国語教育	アジアユーラシアプログラム担当(東アジア、異文化間言語接触)	1
14	高光 佳絵	タカミツ ヨシエ		千葉大学大学院国際学術研究院・准教授	博士 (法学)	国際政治史	アジアユーラシアプログラム担当(環太平洋国際政治、デジタル化資料論)	1
15	福田 友子	フクダ トモコ		千葉大学大学院国際学術研究院・准教授	博士 (社会学)	国際社会学 移民研究	アジアユーラシアプログラム担当(アジアユーラシアにおける移民の国際社会学)	1
16	Julian Biontino	ユリアン ビオンティノ		千葉大学大学院国際学術研究院・助教	博士(歴史教育)	日韓関係史	アジアユーラシアプログラム担当(東アジア国際関係史、ヨーロッパのアジア研究)	1
17	竹内 比呂也	タケウチ ヒロヤ		千葉大学大学院人文科学研究院日本・ユーラシア文化研究部門日本語文化論講座・教授、副学長	文学修士	図書館情報学	Digital Humanities2.0プログラム担当(人文情報学)	1
18	傳 康晴	デン コウハル		千葉大学大学院人文科学研究院行動科学研究部門認知情報科学講座・教授	博士 (工学)	コーパス言語学 認知科学	Digital Humanities2.0プログラム担当(データサイエンス)	1
19	阿部 明典	アベ アキノリ		千葉大学大学院人文科学研究院行動科学研究部門認知情報科学講座・教授	博士(工学)	知的情報処理(人工知能)	Digital Humanities2.0プログラム担当(データサイエンス、AIに基礎づけられた俯瞰力の獲得)	1
20	松香 敏彦	マツカ トシヒコ		千葉大学大学院人文科学研究院行動科学研究部門認知情報科学講座・教授	Ph. D.	認知科学 認知計算モデル	Digital Humanities2.0プログラム担当(データサイエンス)	1
21	牛谷 智一	ウシタニ トモカズ		千葉大学大学院人文科学研究院行動科学研究部門認知情報科学講座・准教授	博士 (文学)	認知科学	Digital Humanities2.0プログラム担当(データサイエンス、AI基礎)	1
22	荒井 幸代	アライ サチヨ		千葉大学大学院工学研究院総合工学講座・教授	博士 (工学)	分散人工知能 自律分散システム	Digital Humanities2.0プログラム担当(データサイエンス)	1
23	樋口 篤志	ヒガチ アツシ		千葉大学環境リモートセンシング研究センター衛星データ処理室・准教授	博士 (理学)	水文学 衛星気候学	Digital Humanities2.0プログラム担当(地球観測衛星データ解析)	1

14. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	フォート(割合)
24 小風 尚樹	コカベ ナオキ		千葉大学人文社会科学系教育研究機構・助教	修士(文学)	Digital Humanities, 近代イギリス海軍史 (Master of Arts (Digital Humanities))	Digital Humanities2.0 (データサイエンス)	10
25 伊東 久智	イトウ ヒサシ		千葉大学人文科学研究所歴史学研究部門図像情報史学講座・助教	博士(文学)	日本近代史	アジアユーラシアプログラム担当(東アジア近現代)	10
26 橋本 知子	ハシモト トモコ		千葉大学人文科学研究所国際言語文化学研究部門比較文化論講座・准教授	博士(文学)	フランス文学	アジアユーラシアプログラム担当(比較文化)	1
27 遊佐 徹	ユサ トオル		岡山大学副理事(研究担当) 岡山大学学術研究院社会文化科学学域日本・アジア文化専攻・教授・副学域長	文学修士	中国文学	アジアユーラシアプログラム担当(中国)	1
28 津守 貴行	ツモリ タカユキ		岡山大学学術研究院社会文化科学学域国際社会専攻・教授・副学域長	経済学修士	物流経済論、港湾経済論、海運経済論	アジアユーラシアプログラム担当(経済論)	1
29 吉田 浩	ヨシダ ヒロシ		岡山大学学術研究院社会文化科学学域人間社会文化専攻・准教授	修士(文学)	西洋史学	アジアユーラシアプログラム担当(ロシア)	1
30 土口 史記	ツチグチ シキ		岡山大学学術研究院社会文化科学学域人間社会文化専攻・准教授	博士(文学)	中国古代史	アジアユーラシアプログラム担当(中国)	1
31 和田 郁子	ワダ イコ		岡山大学学術研究院社会文化科学学域人間社会文化専攻・准教授	博士(文学)	南アジア、インド洋海域史	アジアユーラシアプログラム担当(南アジア)	1
32 河原 祐馬	カハラ ユウマ		岡山大学学術研究院社会文化科学学域国際社会専攻・教授・学域長	修士(法学)	国際政治学	アジアユーラシアプログラム担当(ロシア、東欧)	1
33 塩谷 毅	シオタニ タケシ		岡山大学学術研究院社会文化科学学域法政理論専攻・教授・副学域長	博士(法学)	刑法学	アジアユーラシアプログラム担当(刑法)	1
34 石田 友梨	イシダ ユリ		岡山大学学術研究院社会文化科学学域・助教(特任)	博士(地域研究)	イスラーム思想史	Digital Humanities 2.0プログラム担当(人文情報学、データサイエンス)	10
35 北川 博史	キタガワ ヒロシ		岡山大学学術研究院社会文化科学学域人間社会文化専攻・教授	博士(文学)	経済地理学、地域公共政策論、地域経済論	アジアユーラシアプログラム担当(地理学)	1
36 中谷 文美	ナカニ アヤミ		岡山大学学術研究院社会文化科学学域人間社会文化専攻・文明動態学研究所・教授	博士(社会人類学)	文化人類学	アジアユーラシアプログラム担当(文化人類学)	1
37 葉柳 和則	ハヤナギ ワズキ		長崎大学大学院多文化社会学研究科多文化社会学専攻・教授	博士(文学)	文化社会学文化史	アジアユーラシアプログラム担当(オランダ・ヨーロッパ)	1
38 木村 直樹	キムラ ナオキ		長崎大学大学院多文化社会学研究科多文化社会学専攻・教授	博士(文学)	日本近世史 日蘭関係史	アジアユーラシアプログラム担当(オランダ・ヨーロッパ)	1
39 王 維	ワン ウエイ		長崎大学大学院多文化社会学研究科多文化社会学専攻・教授	博士(学術)	文化人類学 比較文化	アジアユーラシアプログラム担当(東アジア)	1
40 小松 悟	コマツ サトル		長崎大学大学院多文化社会学研究科多文化社会学専攻・准教授	博士(学術)	開発経済学 環境経済学	アジアユーラシアプログラム担当(東アジア)	1
41 COMPEL RADOMIR	コンペル ラドミール		長崎大学大学院多文化社会学研究科多文化社会学専攻・教授	博士(国際経済法学)	比較政治学	アジアユーラシアプログラム担当(東アジア)	1
42 滝澤 克彦	タキザワ カツヒコ		長崎大学大学院多文化社会学研究科多文化社会学専攻・准教授	博士(文学)	宗教社会学	アジアユーラシアプログラム担当(東アジア)	1
43 南 誠	ミナミ マコト		長崎大学大学院多文化社会学研究科多文化社会学専攻・准教授	博士(人間・環境学)	歴史社会学 国際社会学	アジアユーラシアプログラム担当(東アジア)	1
44 賽漢卓娜	サイハンジュオナ		長崎大学大学院多文化社会学研究科多文化社会学専攻・准教授	博士(教育学)	社会学、移民研究、国際結婚	アジアユーラシアプログラム担当(東アジア)	1
45 キェルヘヤズ アフトゥラルハマン	キェルヘヤズ アフトゥラルハマン		長崎大学大学院多文化社会学研究科多文化社会学専攻・准教授	博士(人間科学)	記号論、言語学	アジアユーラシアプログラム担当(比較文化論)	1
46 森元 斎	モリエト ナオ		長崎大学大学院多文化社会学研究科多文化社会学専攻・准教授	博士(人間科学)	哲学、倫理学	アジアユーラシアプログラム担当(比較文化論)	1
47 野上 健紀	ノノミ タケノリ		長崎大学大学院多文化社会学研究科・多文化社会学専攻・教授	博士(文学)	近世考古学、水中考古学、陶磁史、海上交易史	アジアユーラシアプログラム担当(比較文化論)	1

14. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	フォート(割合)
48 才津 祐美子	サイツ ユミコ		長崎大学大学院多文化社会学研究科・多文化社会学専攻・教授	博士(文学)	文化人類学・民俗学・文化資源・文化財・文化遺産、観光	アジアユーラシアプログラム担当(東アジア)	1
49 森元 斎	モリエト ナオ		長崎大学大学院多文化社会学研究科多文化社会学専攻・准教授	博士(人間科学)	哲学、倫理学	アジアユーラシアプログラム担当(比較文化論)	1
50 野上 健紀	ノカミ ケイキ		長崎大学大学院多文化社会学研究科・多文化社会学専攻・教授	博士(文学)	近世考古学、水中考古学、陶磁史、海上交易史	アジアユーラシアプログラム担当(比較文化論)	1
51 才津 祐美子	サイツ ユミコ		長崎大学大学院多文化社会学研究科・多文化社会学専攻・教授	博士(文学)	文化人類学・民俗学・文化資源・文化財・文化遺産、観光	アジアユーラシアプログラム担当(東アジア)	1
52 岩本 佳子	イワモト ケイコ		長崎大学大学院多文化社会学研究科・多文化社会学専攻・准教授	博士(文学)	東洋史、中東・イスラーム史、オスマン朝史、遊牧民研究、地域研究(トルコ)、古文書学	アジアユーラシアプログラム担当(比較文化論)	1
53 河村 有教	カハム アリノ		長崎大学大学院多文化社会学研究科・多文化社会学専攻・准教授	博士(法学)	刑事法学、基礎法学、新領域法学、法とジェンダー、アジア法	アジアユーラシアプログラム担当(東アジア)	1
54 森川 裕二	モリカワ ユウジ		長崎大学大学院多文化社会学研究科・多文化社会学専攻・教授	博士(学術)	国際政治学、東アジア国際関係、国際関係理論	アジアユーラシアプログラム担当(東アジア)	1
55 伊藤 正彦	イトウ マサヒコ		熊本大学大学院人文社会科学研究部・教授	博士(文学)	中国史	アジアユーラシアプログラム担当(中国)	1
56 稲葉 継陽	イハバ ツグハル		熊本大学文学部附属永青文庫研究センター・教授	博士(文学)	日本史学	アジアユーラシアプログラム担当(東アジア)	1
57 小畑 弘己	オハタ ヒロキ		熊本大学大学院人文社会科学研究部・教授	博士(文学)	東北アジア先史学	アジアユーラシアプログラム担当(東アジア)	1
58 鹿嶋 洋	カシマ ヒロシ		熊本大学大学院人文社会科学研究部・教授	博士(理学)	経済地理学	アジアユーラシアプログラム担当(東アジア)	1
59 シンジルト	シンジルト		熊本大学大学院人文社会科学研究部・教授	博士(社会学)	社会人類学	アジアユーラシアプログラム担当(内陸アジア)	1
60 寺本 渉	テラモト ワタル		熊本大学大学院人文社会科学研究部・教授	博士(学術)	認知科学	Digital Humanities 2.0プログラム担当(データサイエンス、AI基礎)	1
61 牧野 厚史	マキノ アツシ		熊本大学大学院人文社会科学研究部・教授	博士(社会学)	環境社会学 地域社会学	Digital Humanities 2.0プログラム担当(地理情報システム)	1
62 山下 裕作	ヤマシタ ユウサク		熊本大学大学院人文社会科学研究部・教授	博士(文学)	民俗学・農業農村工学(旧農業土木学)	Digital Humanities 2.0プログラム担当(GIS)	1
63 米島 万有子	ヨネジマ マユコ		熊本大学大学院人文社会科学研究部・准教授	博士(文学)	地理学	Digital Humanities 2.0プログラム担当(GIS)	1
64 坂元 昌樹	サカモト マサキ		熊本大学大学院人文社会科学研究部・教授	博士(文学)	日本文学	アジアユーラシアプログラム担当(東アジア)	1
65 西槇 偉	ニシザキ イサム		熊本大学大学院人文社会科学研究部・教授	博士(学術)	比較文学	アジアユーラシアプログラム担当(東アジア比較文学)	1
66 児玉 望	コタマ ノゾミ		熊本大学大学院人文社会科学研究部・教授	修士(文学)	言語学	アジアユーラシアプログラム担当(言語類型論・歴史言語学)	1

進捗状況の概要【2ページ以内】

進捗状況の概要として、①特筆すべき成果のあった事項、②計画通り進んでいる事項、③改善が必要な事項、④プログラムとしての今後の見通しを簡潔に記載してください。

① 特筆すべき成果のあった事項**・学長主導による全学大学院改革**

本学は、学長主導のもと全学を挙げて大学院教育の強化に取り組んできた。具体的には、大学院融合理工学府など自然科学系の人材養成を統括する「自然科学系教育研究機構」、大学院医学薬学府など生命科学系の人材養成を統括する「未来医療教育研究機構」、人文公共学府など人文社会系の人材養成を統括する「人文社会科学系教育研究機構」の3つをトリプル・ピークス（「研究三峰」）と位置付け、その全てにおいて高度な人材養成機能を十全に機能させるために、大学院教育の改革を強力に推進してきた。こうして一つ一つのピークをより高度化すると同時に、それぞれのピークに横串を刺す「大学院共通教育」を設定し、文理を越えた履修によって、専門性に関わりなく高度で普遍的な教養やスキルを学修するための仕組みを整えた。これは学長主導によって全学的に進められてきた横断的な高度教養教育—社会問題解決のために必要な普遍的なスキル・リテラシーの獲得—の成果であり、本プログラムもこうした改革の一端を担ってきた。

2021年度、千葉大学では、これまで推進されてきた大学院改革を、学士課程教育の改革とともに統合的に再確認するための**全学的指針として「千葉大学次世代人材育成計画」を公表**した。そこでは改めて、①学位プログラムとしての大学院教育の確立、ならびに、②本学の教育プログラムと海外大学や企業の教育プログラムのシームレスな接続、③国際協働学習や国際インターンシップの内在化等の措置によって、全学の大学院教育を抜本的に充実させることが謳われるとともに、かかる質的に強化された大学院教育を通して、高い専門性と俯瞰的知識を備えたイノベーション人材を育成することを、全学のビジョンとして明示した。ここに掲げられた大学院教育抜本的充実のための措置は、本プログラムにおいて実現されつつある、あるいはさらに高いレベルで実現すべき教育改革である。その意味で、本卓越大学院プログラムは、学長の強力なリーダーシップによって推進されている全学的大学院教育改革のパイロット・プログラムであり、**全学的指針に沿って人文社会科学系大学院の改革を牽引する役割を担っている**。また、イノベーション人材育成については、国際高等研究基幹に「全方位イノベーション創発センター」を設置し、本プログラムを含め博士課程の修了生が活躍できる場として、特任助教ポジションを大学独自予算で確保している。このような学長のリーダーシップに基づく指針の公表と、その実現に向けた具体的な措置によって、本プログラムをはじめとする博士後期課程教育の持続的発展が担保されるとともに、全学的な大学院改革が強力に推進されている。

・Blended Learningの推進

本プログラムはもとよりアジアユーラシア研究の深化に向けて学生の海外派遣を想定していたため、全学の支援のもと、国内外のどこからでも履修できるオンライン学修の整備に着手していた。したがって、2020年度～2021年度における新型コロナウイルスによる感染症の流行に際しても、オンラインによる配信授業やCOIL等のVirtual Exchange（オンライン協働学修）によってプログラムを着実に遂行することができた。2022年度に入り、対面学修に軸足を置きつつ、時間的・空間的制約の影響を受け難いオンライン協働学修については、これまで蓄積された経験をもとに、対面学修との効果的な併用（Blended Learning）を実施している。

具体的には、リアルとバーチャルの連携、併用がもっとも効果的であると考えられるのは、国内外連携大学との学生参加型協働学修である。本プログラムは、少なくとも年度内に1回、すべての大学のプログラム所属大学院生が、専門の垣根を越えて集合し、それぞれの研究内容について発表するとともに、ディスカッションを行う合同コロキウムを実施してきた。2020年度、2021年度の合同コロキウムは、オンラインを利用した同時双方向型で実施したが、2022年度は全プログラム所属大学院生が9月下旬（予定）、千葉大学、ならびに国立歴史民俗博物館に集結して、対面によるコロキウム（研究報告会）と所属大学をシャッフルした混合チームによるワークショップを開催する。一方、空間的な距離にかかわらず機動的に実施できるオンライン協働学習のメリットを活かすために、2022年度には、並行して定期的なオンライン研究会を立ち上げる。このように、バーチャルとリアルと、2つの環境を併用するBlended Learningに基づいて、所属大学・所属大学院を越える多元的な指導回路と、プログラム所属大学院生が切磋琢磨しつつ、成長を実感できる教育環境を構築する。

グローバルな協働、企業との協働についても、リアルとバーチャルの併用は有効である。中国における東アジア・日本研究拠点であり、本プログラムの重要な海外パートナーである浙江工商大学とは、オンラインによる院生研究交流会「卓越大学院日中青年研究者学術論壇」（第1回：2020年度3月、第2回：2021年度3月）を定期的で開催してきたが、2022年9月には浙江工商大学の専任スタッフを千葉大学に招聘し、リアルにおける中国連携大学若手教員とプログラム所属大学院生との協働学修を実施しつつ、これを媒介にバーチャルなオンライン協働学習を併用する。企業との協働についても、

たとえば JTB 総合研究所の場合には、役員レベルの講演はオンラインを用いるとともに、当該研究所研究員との交流、協働学習は、リアルによるワークショップ形式で実施する。

このように、本プログラムはコロナ禍における対面の制限のもとで洗練された Virtual Exchange を活用しながら、国内外諸機関との効果的な協働学修を Blended Learning として推進する。

② 計画通り進んでいる事項

・教育実施体制とカリキュラム

本プログラムはかかる卓越性を確立するために、千葉大学をはじめとする5つの国内大学（千葉大学・岡山大学・長崎大学・熊本大学・総合研究大学院大学）と、3つの企業（イオン株式会社・JTB 総合研究所・千葉銀行）および海外2大学（浙江工商大学（中国）・高等経済学院（ロシア））の連携によって運営されている。これらの国内外の連携機関等との間に構築されている教育体制は計画通り整備されている。

国内連携大学とは、常設の「卓越大学院大学間連絡協議会」を年度内に4回程度開催、プログラムやカリキュラムについてはここで議論して定めている。昨年度は第1ステージから第2ステージへの移行に伴うゲート審査について、どのような能力をどのような方法で確認するのかについて議論し、養成すべき人材像に照らした審査方法を決定するなど、熟議を通して確実な意思共有を実現している。また、国外連携大学とは、オンラインを利用した大学院生間の研究交流や、連続講演などが行われた。

連携企業とは定期的な意見交換を実施しているほか、JTB 総合研究所とはクロスポイントメントの利用による主席研究員の千葉大学派遣によって、協働教育・協働研究を行う。また、イオン・マレーシア前社長・イオン環境財団専務理事・JTB 総合研究所取締役による講演を実施したほか、千葉銀行とは定期的に役員と面会して人文社会科学系大学院の人材育成に関して助言を仰いでいる。

③ 改善が必要な事項

・企業との連携

直接連携している3つの企業の他にも、「地方創生戦略研究推進プラットフォーム」参加企業により協議会を設置すべく、参加企業代表にプログラム概要を説明して内諾を得ていたが、コロナ禍による業績の冷え込み等を理由に、当面の活動を辞退する企業が出るなど、再構築が必要となった。その間にも個別に教育に参加いただき、定期的な助言等を仰ぐなど関係の構築に取り組み、2022年中に千葉銀行の主導により、千葉商工会議所、千葉県経営者協会、JTB 総合研究所等の参画によって、「地方創生高度人材育成のためのコンソーシアム」を創設し、地域社会の求める「知のプロフェッショナル」＝大学院人材のイメージについて協議するための枠組を再構築するとともに、地域の経済団体の仲介によって、協働教育・協働研究に応じる新たなパートナー企業を開拓する。協議体の参加企業は当初計画から変更されたが、大学院生のキャリアパスを開拓するための企業、経済団体とのコンソーシアムは計画通り構築することができる。

④ プログラムとしての今後の見通し

・組織の垣根を越える大学間連携プログラムと質保証

大学間の連携は計画通り進捗しているが、さらに今年度には、プログラムを構成する5つの大学院で共通のルーブリック（プロトタイプ版）を用いて大学院生の学修・研究到達状況を計測し、プログラム内で一貫した評価と指導を実現する。これによって、プログラムに参加する全ての教員、全ての大学院において可視化された評価を共有し、人文社会科学系大学院における組織横断的な質保証を本プログラムからまず実現し、全国の人文社会科学系大学院における質保証の議論の先鞭とする。

・プログラムの教育内容の波及的拡大

本プログラムは、アジアユーラシアが典型例であるような多元的文化環境を理解するための越境力と、Digital Humanities に代表される人文的データサイエンスの新たな学術潮流を、現代世界の課題解決に必要な普遍的知的技能として位置付けた上で、かかる新しい高度な教養を、組織の壁を越えて広く拡延し、共有していくことを目標の一つとしている。この目標に沿って、1) 学士課程教育と大学院教育を縦断する学修、2) 文理などの大学院組織の壁を越えて、全学大学院を横断し、共有される普遍的知的技能の学修を実現し、本プログラムのエッセンスを、学士課程、大学院課程の全てに波及させることがプログラムのミッションであると認識しており、このミッションはプログラムの遂行を通して実現することができる。また、連携大学においてもこのプログラムは、千葉大学と同様、全学への人文的データサイエンス教育の波及拠点となっており、プログラムのエッセンスは大学という組織の壁をも越えつつある。

また、このプログラムにおいて涵養する人文的データサイエンスや異文化越境的理解などのスキル・リテラシーと、総体としての人材養成イメージ、そして、大学院修了者のキャリアパスについても、「地方創生高度人材育成のためのコンソーシアム」（仮称）による産業界との協議を通して認知と浸透を図っていく。

以上のように、本プログラムは、大学全体への波及、他大学への波及、産業界への波及を目指すものであり、かつ、中長期的な見通しのなかで、それを実現できると考えている。